

木田英元海洋化学研究所理事長の思い出

伊藤光昌*

2013年8月13日、木田さん(今迄の習慣から木田さんと呼ばせて頂く)が享年85才で永眠された。木田さんとの邂逅は、三和銀行ドイツデュッセルドルフ支店設立でドイツに赴任された1974年に遡る。当時、私は現職(株)ハーモニック・ドライブ・システムズのドイツ法人(所在地フランクフルト アム マイン)に籍を置いていた。その私を新設なった三和銀行デュッセルドルフ支店との取引開始のため訪ねてこられ、以来、亡くなられるまで、畏敬する先輩として親しくお付き合い頂いた。

木田さんは、私のそれ迄会った銀行家とは全く異質で次元の違う方であった。何時もお供を連れず一人でやって来られ、仕事で余り時間を費やされず、即決型で極めて簡潔に二言三言話すだけ、後はご自身の経営哲学、体験談、ご趣味のオペラや芝居、陶器や磁器、その土地の食べ物、欧州で見学し印象に残った所、又これから訪ねたい場所等の話であった。

私もオペラが好きで、ドイツ及び欧州の主要オペラハウスのプログラムを常に手元に置いていた。木田さんは、電話で来月半ば例えばミュンヘンに出張するが、その頃の出し物は何かと尋ねてこられた。場合によってはご一緒し、そうでない場合は切符の手配をして差し上げた。木田さんは、オペラのプログラムで出張の最終日程を決めて居られたようだ。

この頃私の家には、音楽家達がよく屯していた。木田さんがフランクフルトにこられた折、その集いに恐る恐るお誘いした事がある。予想に反し喜んで来られて我々のバカ話の中に入られた。以来何回かご一緒する機会があって、ある時、木田さんから「一度デュッセルドルフに来ないか、寿司をご馳走する」とのお誘いがあった。寿司屋の無かった当時、デュッセルドルフ日本館の寿司は欧州在住日本人の垂涎的であった。皆大喜びで即話がまとまった。その日、木田さんは、急な日本出張でお出でになれず、日本館に話を通しておくとの事で主役不在の宴会と成った。総勢7名で押し掛けて、木田さんの勘定で大いに飲み食いして帰ってきた。後日お礼の電話を掛けたら、「君達は、随分飲み食べたなあ」と呆れられた。今でもこの仲間に会うと、木田さんが話題に上る。

木田さんは、出張の帰途屢フランクフルトへ立ち寄られ週末を過ごされた。目的は、ヘッセン州とその隣接州の名所旧跡を訪ねる事であった。彼の嗜好は、有名な観光地ではなく、観光客が余り訪れない小さな街等の見学であった。例えば、1484年に建てられたドイツファッハヴェルクハウス(Fachwerkhäuser)の役場が、戦火を免れて佇む小さな街ミッセルシュタット(Michelstadt)とか、ナポレオンの泊まった旅籠がそのまま残るナーゴルト(Nagold)等である。木田さんの楽しみは、訪問先の地方色豊かな飲食店や居酒屋(GaststätteやKneipe)でその地方の物を口にし、土地の人々の雰囲気と接する事であった。お酒は、一家言持って居られたが、口に含む程度で殆ど嗜まれ

* (株)ハーモニック・ドライブ・システムズ代表取締役会長、一般財団法人海洋化学研究所評議員

なかった。

1985年夏、バイロイト (Bayreuth) でヴァーグナー (Richard Wagner) 作品をご覧になった折の子供の様に喜ばれた顔が忘れられない。バイロイト音楽祭に一度行きたいが、今年の演目は何か、切符の入手は可能かと東京から問い合わせがあった。私は、久しぶりに家内と行くつもりで全演目の切符を手配してあり、初日と2日目の切符をお譲りする事になった。初日 (Premiere) 7月25日の出し物は、“さまよえるオランダ人” (Der fliegende Holländer) であった。その公演には、当時のヴァイツェカー西独大統領 (Richard Karl Freiherr von Weizsäcker)、シュトラウスバヴァリア州首相 (Franz Josef Strauß) 等の政府高官が来ており、多くの外国からの来賓もあった。私と席は別々であったが、木田さんはシュトラウスバヴァリア州首相の真後ろに座られて公演を楽しまれ音楽祭の雰囲気を楽しまれた。

銀行家木田さんを語る資格は私にはないが、一つだけ認めておきたい事がある。三和銀行前頭取から伺ったのだが、「木田君は、上司から見ると随分無茶と思える貸し出しを多くした。だが、不思議なことに、焦げ付きが極めて少なかった」と。私は、木田さんにその秘訣を尋ねた。例によって簡潔に「金は、人に貸す。即ち、金は、人と考えてよい。一方担保は、物である。従って、人 (金) と物 (担保) を同格に考えることが問題である。担保から入ると (担保があるから良いと考え) 貸す相手の人物を見なくなる。それが判断を狂わす」と。(1988年1月のメモ)

2003年6月の株主総会において、私は9年務めた社長を退任した。その総会に出席しておられた木田さんから、「然るべき時期に、財団法人海洋化学研究所の理事長に、私の後任として貴殿を推薦するので、そのつもりでいてほしい」と唐突に言われた。私は「大変光栄だが、全くの門外漢でもあり荷が勝ち過ぎるので」と、その場でお断りした。木田さんは「私も門外漢だからそれは問題ない。貴殿は、テクノロジーの世界にいるが、海洋化学研究所は理学の世界である。理学の世界を垣間見るのも良いと思うし、他分野の人々との接触で、新しい発見があるかもしれない」と言われた。その後、お会いするたびに「考えてくれたか」と催促され、遂に根負けしお引き受けすることに成ってしまった。

木田さんの言われたことは確かであった。私は、海洋化学研究所から、今迄の私の発想とは違う世界を臚げながら感じとった。それを言葉にすると無用の用の世界という事になる。そう自分なりに理解してからは、海洋化学研究所に親しみを覚え、そこに居られる多くの碩学の警咳に接する機会を得た事は、真に幸せであった。今では、木田さんのご配慮に心から感謝している。

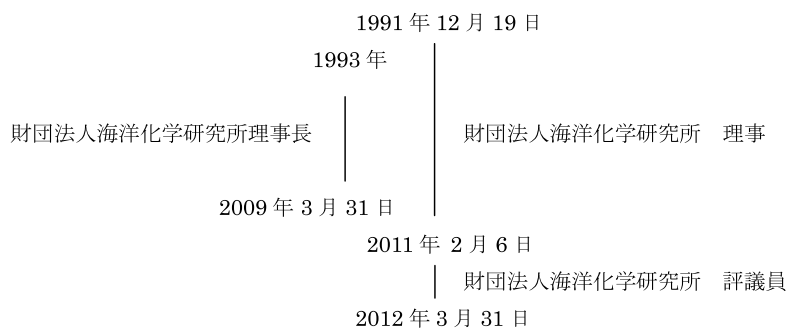
私にとっての木田さんの存在は、その背景に常にドイツがあった。長年住んだドイツを離れて24年になるが、その訃報に、私のドイツでの生活に真の意味での終止符が打たれたような気がした。

木田さんの数々のご厚情に感謝し、ご冥福を心からお祈りしたい。

合掌

木田 英 略歴

1928年10月30日 生まれ
1951年 3月 東京大学経済学部卒業
1951年 4月 (株)三和銀行入行
1974年12月 同行 取締役就任
1977年12月 同行 常務取締役就任
1979年 7月 (株)名村造船取締役副社長就任
1984年 7月 日立造船(株)専務取締役就任
1986年 6月 (株)三和銀行専務取締役就任
1989年 6月 ナビックスライン(株)取締役副会長就任
1993年 6月 (株)ハーモニック・ドライブ・システムズ取締役就任
1993年 6月 三和キャピタル(株)取締役会長就任
2002年 6月 (株)ハーモニック・ドライブ・システムズ顧問就任
2013年 8月13日 逝去



パイロイト祝祭劇場前庭，ワグナー像前にて 1985年7月25日